

# 公募制推薦入学試験

〈出典一覧〉

- |      |   |        |
|------|---|--------|
| 日 文  | 五木寛之 『人間の覚悟』  | 新潮社    |
| 歴 文  | 長谷川修一 『聖書考古学—遺跡が語る史実』   | 中央公論新社 |
| 心 理  | 独立行政法人国立青少年教育振興機構 「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」報告書<br><a href="http://www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/contents/detail/i/62/">http://www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/contents/detail/i/62/</a> |        |
| ビジネス | 日経産業新聞社 日本経済新聞 2017年6月1日付「ダイバーシティ(1)「均質」脱却が競争力に(よくわかる)」   |        |
| 会 フ  | 日経産業新聞社 日本経済新聞 2017年9月22日付 夕刊「商業高校、実践力磨く、会計・簿記+ビジネス体験—<br>地域産業の担い手育てる(学ぶ)」  |        |
| 国 際  | 高島俊男 お言葉ですが…〈2〉「週刊文春」の怪   | 文藝春秋   |

資料に基づいて、以下の問いに答えなさい。

- ①ダイバーシティが企業の競争力の強化にどのようにつながるかを説明しなさい。(200字以内)
  - ②ダイバーシティに関する日本企業の今後の課題は何だと思いますか。あなたの意見を述べなさい。(600字以内)
- ※資料から引用する場合は、必ずカッコ「 」で引用個所を示すこと。

「ダイバーシティ①「均質」脱却が競争力に (よくわかる)」2017/06/01 日経産業新聞

ダイバーシティが求められる背景	
①世界規模での人材獲得競争の激化	優秀な人材獲得で競り負けないために、多様な人材を認める環境が必要
②経営のリスク管理強化の必要性	均質的な組織は多様なリスクを見逃しがちで、多様な人材の視点が必要
③イノベーションの創出の必要性	イノベーションは異なる背景の人の議論や衝突を通じて創出されやすい

人材の多様性を競争力につなげる「ダイバーシティ」経営への関心が高まっている。政府は女性の活躍を後押しし、企業も経営戦略の一環として人材多様化の方針を打ち出す。日本の産業界の人材多様化となった「働き方改革」も、柔軟な働き方を認めることで多様な人材の活躍を目指す。なぜ今ダイバーシティ

## よくわかる

### ダイバーシティ①

要で、どのように競争力に繋がるのだろうか。

ダイバーシティ経営という女性活躍が注目されがちだが、本来は女性に限らず、高齢者や障害者、外国人、性的少数者(LGBT)など様々な属性の人が活躍できる環境を目指すことだ。ただ日本では上場企業の役員

の女性比率が3・4%、管理職社員も12・5%と先進国で最低水準で、まず女性登用をダイバーシティの試金石として位置付ける企業が多い。

なぜ今ダイバーシティ

# 「均質」脱却が競争力に

が必要なのだろうか。ひしひしと起し続けることは企業間競争のグローバル化が進む中で、人材も世界的な取り合いとなっているためだ。優秀な人材は多様性で劣る日本企業を敬遠しがちで、日本企業は人材獲得で競り負けている。とくに日本は労働人口が減少し、人手不足に直面しており、世界から幅広い人材を呼び込む環境整備が急務になっている。

経営のリスク管理の意

味合いも大きい。欧米では2008年のリーマン・ショックを引き起こした要因のひとつとして、取締役会の構成が均質な「グループシンキング」が指摘された。これを防ぐには、多様な人材が多様な視点から多様なリスクを察知し、迅速な対応につなげる必要がある。多様な視点による監督は、経営のガバナンスを強める効果も期待できる。

3つ目はイノベーション創出に果たす役割だ。企業は環境変化に適応し、絶え間なくイノベーション創出に果たす役割だ。企業は環境変化に適応し、絶え間なくイノベーション創出に果たす役割だ。

佐藤史佳、太田順尚、井上孝之、森岡司、桜井豪が担当します。

資料に基づいて、以下の問いに答えなさい。

- ①商業高校がビジネス体験授業を行う理由について説明しなさい。(200字以内)
  - ②高校や大学でビジネス体験を行うことについて、あなたの考えを述べなさい。(600字以内)
- ※資料から引用する場合は、必ずカッコ(「 」)で引用箇所を示すこと。

「商業高校、実践力磨く、会計・簿記+ビジネス体験——地域産業の担い手育てる (学ぶ)」

2017/09/22 日本経済新聞 夕刊

商業高校がビジネスの体験授業に力を入れている。仕入れや集客、販売を体験したり、地元店舗で3年間にわたって実習したり。会計・簿記といった事務能力を学ぶだけでなく、現場を知って実践力を付けるのが狙い。地域経済が停滞するなか、地元産業の担い手を育てたいとの期待が背景にあるようだ。

「途上国の貧しい人への寄付につながります。一度手に取ってあげませんか」。8月下旬、大阪市淀川区の「三國新道商店街」で、高校生が行き交う買い物客に声をかけていた。取り扱うのは途上国の生産者・委託工場から適正な価格で仕入れた「フェアトレード」の商品。グラノーラやコーヒールなど9種類の食品や日用品が並び、手書きの店頭販促(POP)材が添えられている。

商業系の市立高7校でつくる「大阪市ビジネス教育推進委員会」が、2014年度から取り組む「チャレンジ講座」は、商品の仕入れから販売までを生徒に体験させる。企画する大阪ビジネスフロンティア高校(同市天王寺区)の大中真太郎教諭(33)は「初めて他の校の生徒とコミュニケーションをとる機会が、課題を達成する経験は貴重」と話す。

### 商業高校 実践力磨く

# 会計・簿記+ビジネス体験

分かれ、商品選定やチラシ配り、販促方法を決め、商品やフェアトレードを説明する文章も生徒が考えたものだ。

参加した扇町総合高校(同市北区)2年の朝井菜々花さん(17)は「商品の良さを伝え、購入してもらうことの難しさが分かった」と充実した表情。将来はブライダルを販売する仕事に就きたいという「広

商業高校ではビジネスの基礎や会計などの商業科目がカリキュラムの3割程度を占める。かつては卒業後に事務職などに就く生徒が大半だったが、近年は大学や専門学校への進学者が半数を超え、就職するのは全体の4割程度だ。

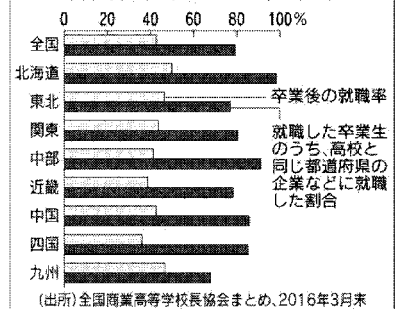
## いまや進学者が過半数

地元就職 北海道は9割超

アンケートによると、昨年3月の卒業後に就職した生徒のうち、高校の所在地と同じ都道府県で就職した生徒が79.4%だった。

地域別に見ると、北海道では98%を超えており、中部地方も9割以上と高水準だった。大都市圏で就職する生徒が多いなかで、商業高校の卒業生は地域経済を支える人材になっているようだ。

### 就職者の大半が地元企業で働く



▲ 大阪の市立高7校

## 仕入れ、広報、販売 自ら経験

元の経済活性化を実践的に考える授業「松山学」だ。松山や愛媛の産菜・観光資源について教習で学ぶほか、「1000日実習」として生徒が3年間を通して商店街の店舗の仕入れや販売に関わる。宇都宮勉教頭(55)は「商品開発などに長期関わることで、卒業後にそのまま残って働けるほどの力が身につく」と狙いを語る。

## 地域産業の担い手育てる

告げりや接客のコンを身につけたい」と意欲を見せ、当初は30人に満たなかった参加者が今年度は90人近くになった。大中教諭は「ビジネスの本質まで踏み込んで考える力が身につく」と期待する。

商業高校では簿記などの授業が多く、かつては企業の事務職に就く生徒が大半だった。地域経済が低迷する中、地元産業の中核を担う人材の育成を期待されるようになっている。

愛媛県立松山商業高校(松山市)は今年度、「地域ビジネス科」を新設した。1.3倍の倍率をくぐり、40人が入学。口下は地

受け入れ先の店舗で経済手法を学ぶだけではない。生徒は仕入れの効率化や販促策などを提案するよう求められる。商店街側は「若者の新たな視点が店主にとっても刺激になる」(道後商店街振興組合の、好隣理事)と期待する。

店舗によって学ぶ内容が異なるため、生徒からは「友達の実習先のことを聞くことも勉強になる」といった声が上がっているという。宇都宮教頭は「地元への誇りと実践力を兼ね備え、将来を担う使命感のある人材になってほしい」と話す。